

〈表紙〉

論文種別

報告

題目（和文・英文）

大学体育スポーツ授業における「Baseball5」の実践と課題：初習者を含むクラスにおける発生傷害と技能変容に着目して

Practice and Issues of “Baseball5” in University Physical Education and Sports Classes: Focusing on Injury Incidence and Skill Development in Beginner-Inclusive Classes

全ての著者名及び所属機関（和文・英文）

安達 玄 ADACHI Gen：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科 Matsumoto University, Department of Sports and Health Science, Faculty of Human Health Science

押川 智貴 OSHIKAWA Tomoki：東京経済大学全学共通教育センター Tokyo Keizai University, Center of General Education

勝亦 陽一 Katsumata Yoichi：東京農業大学応用生物科学部 Tokyo University of Agriculture, Faculty of Applied Bioscience

連絡先（メールアドレス）

安達 玄(筆頭・責任著者) gw-nata1@fuji.waseda.jp

押川 智貴 tomoki-oshikawa@toki.waseda.jp

勝亦 陽一 yk205314@nodai.ac.jp

## 〈本文〉

### I. はじめに

野球やソフトボールに代表されるベースボール型種目は、大学体育スポーツ授業において長年親しまれてきた。しかし、その実施にはグラウンド施設の確保や整備、多様な用具の準備・管理といった環境的・経済的制約が伴い、教員にとって授業運営上の負担が大きい。また、ルールの複雑さ、バット・打球に起因する事故リスクへの対応など、安全性を担保しつつ多人数クラスを円滑に運営することは容易ではない。さらに学生にとっては、バットやグラブといった道具を用いた動作の技術的難易度が高く、経験者と未経験者の技能格差が大きいことから、未経験者や技能水準の低い学生にとって授業への参加が困難となりやすい。これらの課題は、教員側の教育実施上の困難にとどまらず、学生の主体的な参加を阻害し、学習機会の均等性を損なう可能性を内包している。大学体育スポーツ授業においては、技能や経験の差異に関わらず、すべての学生に安全で包摂的な学習環境を提供することが求められるが、従来のベースボール型種目はその点において再検討の余地がある。特に、体育・スポーツや野球・ソフトボールが男女別に成立してきた歴史的背景に対しては、多様性を前提としたインクルーシブ教育の観点から見直しが求められており、性別による区分の妥当性や、ともにプレーすることの意義についても議論がなされている。これらを踏まえると、性別を問わず同一条件での参加を前提とする新たなベースボール型の教材・種目の必要性が示唆される。

こうした課題を解決し得る新しいベースボール型種目として、近年、Baseball5 が注目されている。Baseball5 は 2017 年に世界野球ソフトボール連盟より野球・ソフトボール振興の一環として発表された新しいアーバンスポーツである（一般財団法人全日本野球協会, 2023）。基本的なルールは野球やソフトボールを踏襲しつつも、21m四方のスペースで実施可能であり、バット・グラブ・防具を使用せずゴム製ボールを素手で扱う点、男女混合 5 名ずつのチームでゲームを行う点に最大の特徴がある。道具を介さないことで技術的障壁が低く、初習者でも参加しやすい。また、天候の影響を受けない体育館等の室内でも実施可能であり、必要な備品もボールとコート表示用のテープのみであるなど、大学体育スポーツ授業教材としての高い導入可能性を有している。

1       しかし、Baseball5 は比較的新しい競技であるため、大学体育スポーツ授業に  
2       おける実践報告や学生の技能変容に関する知見は十分ではない。また、素手で  
3       ゴム製のボールを扱う特性上、特有の傷害が発生する可能性が予想されるが、  
4       その実態を調査した報告はない。そこで本稿では、大学体育スポーツ授業にお  
5       ける Baseball5 の導入実践を報告するとともに、期間中の傷害発生状況および  
6       技能変容を調査した。これらを通じて、今後 Baseball5 の導入および実施を検  
7       討する教育者に対し、授業設計および安全な運営、実施上の課題に関する実践  
8       的知見を提供することを目的とした。

## 11    II. 方法

### 12    1. 対象

13       対象は首都圏に所在する四年制大学の「スポーツ健康科学実技 ベースボー  
14       ルフアイブ」の授業を履修し、単位を取得した 30 名（男性 10 名、女性 20 名、  
15       平均年齢 20 歳）とした。野球・ソフトボール経験者は 9 名（男性 6 名、女性 3  
16       名）であり、未経験者は 21 名（男性 4 名、女性 17 名）であった。本調査を行  
17       うに際し、所属機関の倫理審査の承認を受けた（承認番号：K2023-002S）。

### 19    2. 授業実施環境

20       授業は室内アリーナ（長辺 58.1m、短辺 35.7m）にて実施した。Baseball5 の  
21       フィールドの詳細を図 1 に示す。壁面を活用した 21m 四方のスペースを、室内  
22       アリーナの対角線上に 2 面設営した。設営には緑色の養生テープを用い、一塁・  
23       二塁・三塁・打者走者駆け抜け用ベース（各 0.6m 四方）、打者走者セーフエリ  
24       ア（長辺 1.5m、短辺 0.6m）、バッタースボックス（3m 四方）、およびフェアゾ  
25       ーン内のノーヒットゾーンラインを作成した。これらの設営は、毎授業回冒頭  
26       に学生が協働して行う授業設計とした。

←図 1 挿入

### 28    3. 授業構成

29       実際に実施した授業実施順序を表 1 に示す。本授業では、全 15 回を導入・  
30       基礎技能習得期（第 1 回から第 5 回）、戦術学習・試合期（第 6 回から第 12 回）、

1 総括期（第 13 回から第 15 回）の 3 つの区分を企図して運営した。

←表 1 挿入

#### 2 3 4. 傷害調査

4 毎授業中および授業後に外傷発生の有無を視認および口頭で確認した。確認  
5 は、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、理学療法士の資格を有  
6 する筆頭筆者が行った。また、最終授業終了時に、「授業後 1 日以上続く症状の  
7 発生の有無」を遡及的に調査した。

#### 8 9 5. パフォーマンス測定

10 技能変容の指標として、最大努力打撃時の打球速度を第 5 回授業時 (Pre)、  
11 第 13 回授業時 (Post) に測定した。被測定者はバッタースボックスから二塁ベ  
12 ース方向に最大努力で 2 回打撃を実施し、測定者は被測定者の後方 3m 地点よ  
13 りスピード測定器 (Bushnell 社製) を用いて打球速度を測定した。2 回実施し  
14 たうち、最大値の記録を代表値とした。SPSS Statistics ver31.0 (IBM 社製)  
15 を用い、Pre および Post の記録の正規性を確認するために、Shapiro-Wilk 検  
16 定を行った。正規性を認めたため、対応のある  $t$  検定 (有意水準 5%) を用い、  
17 Pre および Post の記録比較を行った。効果量 (Cohen's  $d$ ) は小 0.2, 中 0.5,  
18 大 0.8 とした (Cohen, 1992)。

#### 19 20 6. 最終リフレクションシート

21 毎授業後に学習内容の振り返りおよび内省としてリフレクションシート (A4  
22 判) への記述を 4 行程度求めた。最終授業回では全 15 回を通じた学び、気づ  
23 き、感想、授業運営の改善提案を記述させ、主観的変容の補助的資料とした。

### 24 25 26 III. 結果

#### 27 1. 傷害調査

28 調査結果を表 2 に示す。授業後 1 日以上続く症状の発生数は 9 件であった。  
29 内訳部位の中で手部が 5 件と最も多く、全例打撃側の手部に主訴を認めた (図  
30 2)。

←表 2, 図 2  
挿入

1

## 2 2. パフォーマンス測定

3 Pre および Post の打球速度の結果を図 3 に示す。感染症等で授業を欠席し、  
4 第 5 回 (Pre) および第 13 回授業 (Post) の測定値のいずれかが欠損した 14  
5 名は解析対象から除外した。Pre の打球速度は  $44.1 \pm 11.7 \text{ km/h}$ 、Post の打球速  
6 度は  $51.5 \pm 10.7 \text{ km/h}$  であった。打球速度が増加した対象者は 16 名中 13 名で  
7 あった。対応のある  $t$  検定の結果、Pre から Post にかけて有意な打球速度の増  
8 加を認めた ( $t(15)=3.32$ ,  $p < .001$ , Cohen's  $d=0.83$ )。

9

←図 3 挿入

## 10 3. 最終リフレクションシート記述内容

11 最終授業終了時のリフレクションシート記入において、「全授業回を終えて  
12 振り返り、気づき、感想」という設定のもと、自由記述にて提出された。以下  
13 に、野球・ソフトボール経験者および未経験者別に代表的な記述を原文のまま  
14 抜粋する (表 3, 4)。

15

←表 3, 表 4  
挿入

16

## 17 IV. 考察

18 本調査から、大学体育スポーツ授業における Baseball5 は、手部に特有の傷  
19 害リスクを内包する一方で、短期間で有意な打球速度の向上をもたらすことが  
20 明らかになった。また、最終リフレクションシートからは技術向上のみならず、  
21 チーム活動を通じた対人スキルの発達や学習意欲の向上が示唆された。

22

### 23 1. 傷害調査

24 傷害調査において手部の発生件数が最多であったことは、Baseball5 特徴で  
25 ある「ゴム製ボールを素手で強打する」という競技特異性に起因すると考えら  
26 れる (図 4)。ボールインパクト時に手に加わる衝撃は、代表的な症例 (図 2)  
27 のような内出血、圧痛、動作時痛などを惹起しやすい。手部に主訴を認めた学  
28 生は全例野球・ソフトボール未経験であったことから、未経験者が打撃時の適  
29 切なインパクト位置を習熟していないことに加え、野球・ソフトボール経験者  
30 に比して手部の衝撃に対する生理的な耐性が形成されていないためと考えられ

1 る。実際、最終リフレクションシートの学生の記述に、「バッティングの際に痛  
2 みを感じていた人も多かったので、手を保護する固い物をつけたり、服を手の  
3 先まで伸ばして服の上から打ったりなど、直接手で打つのを避けた方がより快  
4 適に授業を楽しめるのではないかと感じました」といった提案があった。本授  
5 業は秋学期に実施され、特に冬季期間は低気温下での打撃が疼痛知覚を増幅さ  
6 せた可能性がある。痛みの発生は授業の快適性や継続意欲を阻害する要因とな  
7 り得ることが示唆される。今後の予防対策の一案として、公式ルールでは認め  
8 られていないが、打撃用手袋の使用を推奨し、手部への衝撃を緩和することが  
9 学生の積極的な授業参加を促進する上で有効な手立てとなると考えられる。ま  
10 た、外傷性の膝の症状について、膝を地面についた低い姿勢での捕球場面が野  
11 球・ソフトボールに比べ多くなりやすいことに起因すると考えられる。  
12 Baseball5 は特別な道具を使用しない手軽さが強調されるが、体育館等の硬い  
13 床面で行うため、公式ルールでも認められている衝撃緩和用膝サポーターの着  
14 用が外傷性膝症状の予防に推奨される。加えて、プレーヤー間の接触に起因す  
15 る傷害として、走者と守備者の衝突による守備者における大腿部前面の打撲が  
16 1件発生した。Baseball5 のルールでは、守備者が故意に走者の走路を妨げない  
17 限り、打球処理を行う守備側の優先権が認められており、走者は守備者を避け  
18 て走塁をする必要がある。しかし、Baseball5 の経験が浅い履修者において、  
19 守備者はボール処理に、走者は次塁への到達に意識が集中しやすく、周囲の状  
20 況把握が不十分になりやすい。本事例のような外傷を予防する上で、ルール説  
21 明の徹底のみならず、走者が守備者を避けた走塁を基本として練習や試合を行  
22 うことの徹底が重要であると考えられる。

←図4挿入

23

## 24 2. 技能変容

25 技能変容について、打球速度が Pre から Post にかけて増加し、肯定的な変  
26 容を認めた。この要因として、Baseball5 がバットという道具を介さない素手  
27 による打撃である点が挙げられる。野球・ソフトボール未経験者にとって高い  
28 障壁となるバット操作の習熟プロセスを省略できるため、授業初期から「ボ  
29 ルを捉える」という運動の本質的な愉しさに触れ、反復練習へ移行しやすい特  
30 徴を有していたことが推察される。第2回から第5回授業で基本的な打撃方法

1 を練習し、第 6 回以降はチームごとにウォーミングアップから練習を 20 分  
2 から 25 分行う形式で授業を進めた。この形式の中で、野球・ソフトボール経験者  
3 や打撃のコツを体得した学生が、未経験者や円滑に実施できない学生に教え合  
4 う時間と空間が生まれた。最終リフレクションシートの記述にあるように、「最  
5 初は打つときも空振りばかりだったが、走者の位置を考えて打つところを狙っ  
6 たりすることができた」、「打撃でも手に当たらなかったボールがみんなで話し  
7 合い、強い打球が打てるようになるまで上達した事が野球を経験した身からも  
8 凄くうれしく楽しくベースボール 5 を出来ました」など、打球速度だけではな  
9 い打球をコントロールして打つ技術も肯定的に向上したことが示唆される。こ  
10 のように、Baseball5 はベースボール型種目の楽しさを理解し、体感するため  
11 の優れた教材種目である可能性がある。

12

### 13 3. 授業運営における課題

14 本実践を通じ、今後の授業運営を改善する上での課題として、以下の 3 点が  
15 挙げられる。

#### 16 3.1. Baseball5 の競技ルール習熟のための形成的評価の実施時期

17 第一に、Baseball5 のルール理解を深めるための評価の実施時期である。本  
18 授業では第 14 回に小テストを実施したが、学生からは「ルールのテストを授業  
19 回途中で入れるとレベルアップに繋がったと考える」と指摘があった。  
20 Baseball5 は比較的新しい競技であり、ルールの習熟が戦術的な面白さに直結  
21 する。したがって、第 7 回から第 8 回などの中盤に、形成的評価として小テス  
22 トを実施した方が、序盤および中盤以降の授業姿勢へ肯定的に影響し、学生の  
23 Baseball5 への理解度を高める動機付けの上でより有効であった可能性がある。

#### 24 3.2. 固定チーム制と交流機会のバランス

25 第二に、チーム編成の柔軟な対応である。本授業では第 5 回授業まで出席者  
26 をランダムに選出し、4 チーム編成で体験ゲームを実施する中で、学生の技能  
27 の判別、過去の野球・ソフトボール経験歴を聴取し、第 6 回授業以降は技能格  
28 差や野球・ソフトボール経験歴に偏りが生じないように 4 チームのメンバーを  
29 固定して編成した。学生の最終リフレクションシートからは「チームを固定し  
30 てくれたことで、チームワークができたり、戦略を考えてチームごとに独自の

1 プレースタイルがあったり、それもおもしろかったです」、 「同じチームでずつ  
2 と試合を行ってきた為、 チーム内でルールを教えあったりそれぞれのメンバー  
3 の得意なこと・苦手なことを把握した上でその部分を他のメンバーが補ったり  
4 する事ができたので、 チームを固定した点が良いと思います」とある一方、  
5 「個人的に、 2 回くらいはチーム編成の機会があれば交流の幅が広がるのでは  
6 ないかと思いました」という記述も見られた。 今後の授業運営では、 良好な反  
7 応であった要素を踏襲した上でチーム再編成の機会を設け、 学生間の交流を活  
8 発化する仕組みづくりが求められる。

### 9 3.3. 学生主体の学習における技術的フォローアップ

10 第三に、 授業構成における教員による技術的指導およびフォローアップであ  
11 る。 本授業では、 全 15 回を導入・基礎技能習得期（第 1 回から第 5 回）、 戦術  
12 学習・試合期（第 6 回から第 12 回）、 総括期（第 13 回から第 15 回）に区分し  
13 て運営した。 学生の最終リフレクションシートの記述に「先生がこれをして  
14 あれをしてという感じではなく、 ある程度を教えた自分たちで考えて練習  
15 をする感じだったので、 学生同士のコミュニケーションも増えたと思うし、 み  
16 んなで考えるという機会も多く、 ベースボールファイブという競技への理解も  
17 深まったと思います」とあるように、 この区分ならびに構成は学生の技能およ  
18 び理解向上や対人スキルの発達に肯定的な影響を与えた可能性がある。 しか  
19 し、 野球・ソフトボール経験者の女性学生の記述に「女子の割合が多くて、 その中  
20 には投げることや捕球が苦手な子もいたのですが、 私自身は上手く教えること  
21 が出来なかったので投げるコツや捕球の仕方などを私も含めてもう少し詳しく  
22 教わりたかったなと感じました」とあるように、 基礎的技術の練習時間および  
23 期間の確保、 フォローアップがより必要であったと考えられる。

24

25

## 26 V. まとめ

27 本調査では、 大学体育スポーツ授業における Baseball5 の実践を通じて、 授  
28 業期間中の傷害発生状況および技能変容、 ならびに授業運営上の課題について  
29 検討した。 その結果、 授業後 1 日以上継続する症状は計 9 件認められ、 とく  
30 に打撃側手部に集中する傾向がみられた。 一方で、 打球速度は授業前後で増加

1 し, 初習者を含む授業において短期間でも肯定的な技能変容が得られた。また,  
2 最終リフレクションシートの記述からは, 協働的学習や競技理解の深化などの  
3 教育的効果が示唆された。

4 以上より, Baseball5 は適切な安全管理を行うことで, 初習者を含む男女混  
5 合の大学体育スポーツ授業において有用なベースボール型教材となる可能性が  
6 示された。今後は対象者数や授業条件を拡大した検討を通じて, 教育効果およ  
7 び安全管理に関する知見をさらに蓄積する必要がある。

8

9

## 10 文献リスト

11 Cohen J, A power primer, Psychological Bulletin, 112, 155-159, 1992.

12 一般財団法人全日本野球協会, <https://www.baseball5.jp/about/>, 2023.3.1.

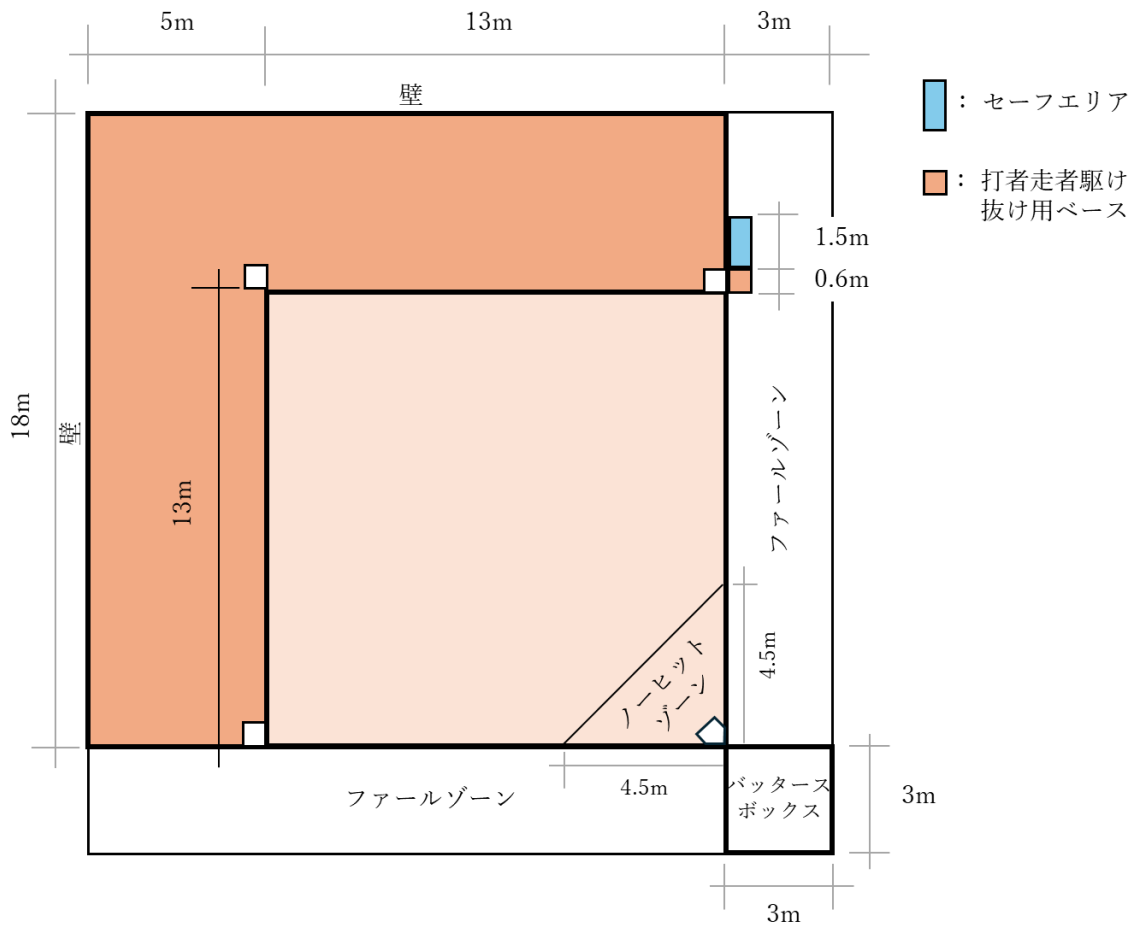


図1 Baseball5のフィールド

表1 授業構成

区分	授業回	主な実施内容
導入・基礎技能 習得期	第1回	ガイダンス
	第2回	グラウンド設営練習 基本練習（打つ，捕る，投げる） 体験ゲーム
	第3回	フィールド内アクティビティ 基本練習（打つ，捕る，投げる） 体験ゲーム
	第4回	基本練習（打つ，捕る，投げる） 体験ゲーム
	第5回	基本練習（打つ，捕る，投げる） 測定 体験ゲーム
戦術学習・ 試合期	第6回～ 第12回	チーム別練習 チーム対抗ゲーム
	第13回	チーム別練習 測定 チーム対抗ゲーム
総括期	第14回	チーム別練習 チーム対抗ゲーム Baseball5のルールに関する小テスト
	第15回	チーム別練習 チーム対抗ゲーム ルールに関する小テスト 全授業回振り返り

表2 傷害調査結果

件数	部位	詳細
5件	手部	・ 打撃側の手掌下部, 母指球, 手指に内出血, 圧痛, 動作時痛
2件	大腿部	・ 守備局面において走者と衝突し, 大腿部前面打撲 ・ 遅発性筋痛
1件	膝	・ 守備局面の捕球時に膝をフロアに強打し, 膝蓋骨周囲に内出血発生, 日常生活動作時痛
1件	肩	・ 上肢挙上時の動作時痛

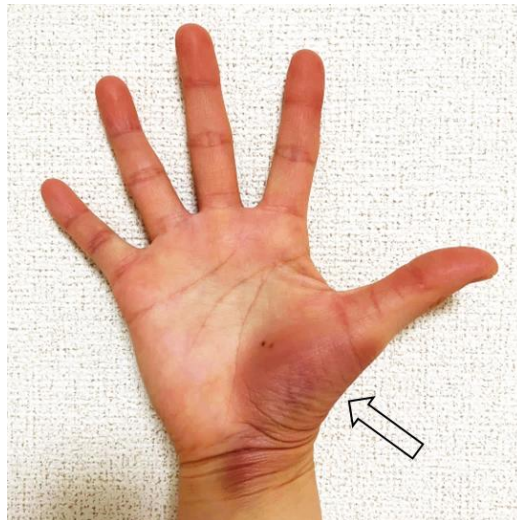


図2 代表的な手部の症例

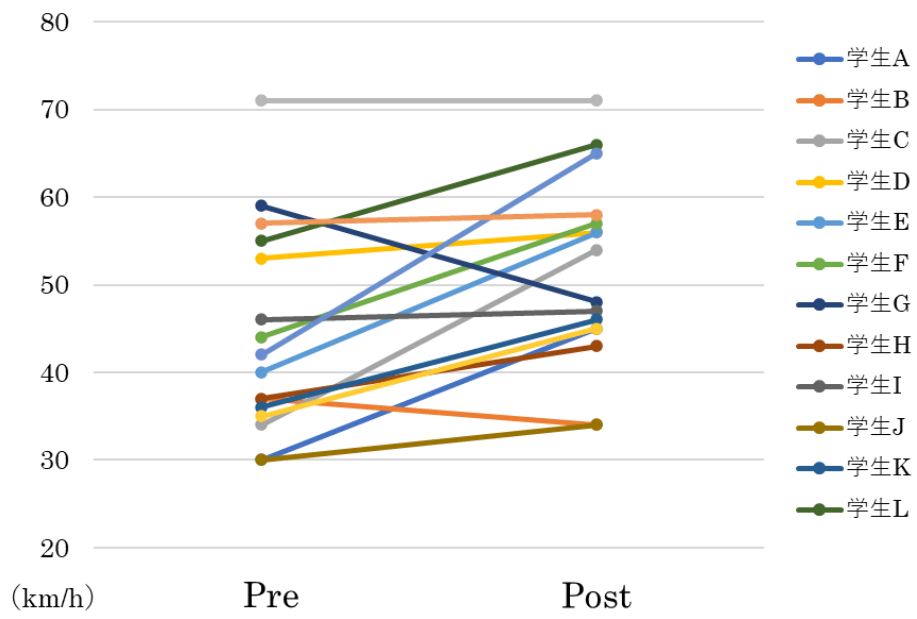


図3 打球速度の変化

表3 野球・ソフトボール経験者の最終リフレクションシート記述内容

対象者	記述内容
3年生女性学生	<p>(前略) 正確な場所に打球を打てるように打ち方を工夫したら狙った場所に打てるようになりました。ベースボールファイブが上達して考えてプレーできるようになって、すごく楽しかったです。チームを固定してくれたことで、チームワークができたり、戦略を考えてチームごとに独自のプレースタイルがあったり、それもおもしろかったです。</p>
4年生女性学生	<p>チームが決まってからは、チーム内で練習する時間が多くあったのでチームメイトと仲良くなるのが出来たことが良かったです。(中略) スピード計測も普段経験できないことなので、印象に残っています。女子の割合が多くて、その中には投げることや捕球が苦手な子もいたのですが、私自身は上手く教えることが出来なかったので投げるコツや捕球の仕方などを私も含めてもう少し詳しく教わりたかったなと感じました。</p>
3年生男性学生	<p>チームとして守備で触れなかったボールを止める、捕球してアウトにできるまで上達したり、打撃でも手に当たらなかったボールがみんな話合い、強い打球が打てるようになるまで上達した事が野球を経験した身からも凄くうれしく楽しくベースボール5が出来ました。良かった点：男女共に活躍する場があり、チームプレーを意識できた。改善点：ルールテストを授業回途中で入れるとレベルアップに繋がったと考える。</p>
3年生男性学生	<p>細かいルールまでわかるように座学や課題などでわからない人に教えるというより、先生はゲームや実際にボールを使った動きのなかで教えていて、技術の練習、ルールの理解を同時に進められていて週一1時間半のベースボール5を学ぶ上でとても効率が良かったなと思いました。準備運動なども気を配っていて怪我をしないようにしてくれていたのがわかりました。とても楽しく授業に臨めました。</p>
3年生男性学生	<p>(前略) この授業は初めての競技で野球経験者とか男女の差とかが野球よりも生まれにくくてよい競技だと思った。</p>

表4 野球・ソフトボール未経験者の最終リフレクションシート記述内容

対象者	記述内容
2年生女性学生	<p>良かった点：授業時間内の試合の時間配分が多く実践的なプレーが多くできたため成長速度が速かったように感じた。初期の毎回違う人達とチームを組むのも楽しかったがチームが固定になると団結力やチームごとの特色が出てきて面白かった。</p> <p>改善すると良い点：フィールドを作る人が固定化していた感じはあったのでチームごとでフィールドを作る人を週替わりで担当性にすると全員が満遍なくフィールド作成する機会が出来るのかなと感じた。</p>
2年生女性学生	<p>(前略) 最初は打つときも空振りばかりだったが、走者の位置を考えて打つところを狙ったりすることができた。また、守備では、最初はボールが飛んでくるのが怖かったが、ノーバウンドでキャッチできたときはとても嬉しく、手にしっかりとつかむ感覚をつかむことができた。野球のルールもわからず、運動も得意な方ではないけれど、このベースボールファイブの授業を通じて、スポーツの楽しさを実感することができた。あまり知られていない競技だったが、このように授業でやる機会があり、良かったです。</p>
2年生女性学生	<p>ベースボールをテレビで見たことはあるけれど、実際に自分がやる機会はないので、最初はルールを理解するところから始めました。言葉で説明するよりも、授業の中で実際にやりながらルールを説明してくれたので、理解しやすかったです。また、途中からチームが固定になったことで、1回1回授業を重ねることで、チームの中でのコミュニケーションをとることができたので、団結感が強まり、先輩である3年生と試合をすることは始め緊張しましたが、最後の方の授業では先輩、後輩、関係なく応援することができ、とても良い雰囲気で行うことができました。15回の授業を楽しく学び終えることができました。</p>
3年生女性学生	<p>良かった点：同じチームでずっと試合を行ってきた為、チーム内でルールを教えあったりそれぞれのメンバーの得意なこと・苦手なことを把握した上でその部分を他のメンバーが補ったりする事ができたので、チームを固定した点が良かったと思います。毎回チームが変わるよりも、チーム内の団結力が生まれ、試合で勝ちたいと思うモチベーションがチームとして上がっていった気もしています。その為、授業の回数を重ねる毎に授業が私自身も楽しみになっていきました。</p>

	<p>改善するともっと良くなる点：毎回授業の終わりに振り返りのシートを記入する時間があったので、ただ試合をして終わりではなく、今日上手くいったこと・次回の課題にしたいことなどを自分自身で振り返ることができ、その制度はすごく良かったと感じています。なので、せっかく振り返る時間があるのなら、みんな個々で振り返りシートを書いていたので、チームでまとまってシートを記入するようにすると、チーム内で今日の試合で良かったこと・反省点・次回の試合で課題にしたいことなどがみんなで共有が出来ると思うので、チームごとにシートを記入するとさらに振り返りの時間が深まるかなと感じました。ベースボールファイブの授業を毎回とても楽しく参加することができました。</p>
<p>3年生女性学生</p>	<p>ずっと同じチームで試合を行っていたので、チームワークや団結力、コミュニケーションを取るなど一体感を感じられて良かったです。(中略)また、バッティングの際に痛みを感じていた人も多かったので、手を保護する固い物をつけたり、服を手の先まで伸ばして服の上から打ったりなど、直接手で打つのを避けた方がより快適に授業を楽しめるのではないかと感じました。先生がこれをしてあれをやったという感じではなく、ある程度を教えたら自分たちで考えて練習をする感じだったので、学生同士のコミュニケーションも増えたと思うし、みんなで考えるという機会も多く、ベースボールファイブという競技への理解も深まったと思います。個人的に、2回くらいはチーム編成の機会があれば交流の幅が広がるのではないかと思います。</p>
<p>3年生女性学生</p>	<p>振り返りの時間とチームで練習する時間が毎授業あったことで、自分たちのチームの課題に気づくことが出来ました。さらに、打球の速度の計測などもあったので、自分の課題点にも気づくことが出来ました。ただ、チーム替えが無かったので、もっと色々な人とチームを組んでみたかったと感じました。あまりチームの戦力にはなれませんでした。仲間と協力して戦う団体スポーツの楽しさに改めて気づくことができました。</p>



図4 打撃動作の実際（別会場にて撮影）